

監査報告第1号  
平成25年2月18日

半田市市長様  
半田市議会議長様  
半田市教育委員会委員長様

半田市監査委員 深谷昭秀

半田市監査委員 渡辺昭司

#### 財政援助団体等監査結果の報告について

地方自治法第199条第7項の規定に基づいて財政援助団体等監査を行ったので、その結果を同条第9項の規定により報告いたします。

# 半田市体育協会

## 第 1 監査の時期

平成 25 年 1 月 28 日

## 第 2 監査の対象

半田市体育協会

所管部課 教育委員会教育部スポーツ課

## 第 3 監査の方法

監査に当たっては、教育委員会教育部スポーツ課には平成 23 年度及び平成 24 年度の交付金関係書類の提示を求めた。また、財政援助団体の半田市体育協会（以下「協会」という。）には当交付金の対象事業に関する書類の提示を求めて実施した。

なお、教育委員会教育部スポーツ課においては、半田市体育協会スポーツ振興事業交付金交付要綱に基づき、交付金の算定及び交付手続き並びに指導監督が適正になされているか、また協会にあっては、目的に沿った事業の適正な執行及び交付対象事業に係る出納その他事務の適正な執行がなされているかを主眼として、協会役員及び関係職員から説明を聴取し、監査を実施した。

## 第 4 監査の概要

### (1) 協会の事業内容

当協会は、昭和 22 年に設立され、市内の体育諸団体を総括し、市民の体位向上及び生活の明朗化を図るため体育の振興とスポーツの普及に努めることを目的に主として次の事業を行っている。

- ア 加盟体育諸団体の強化発展と連絡融合
- イ 体育大会、講習会等体育に関する各種行事の実施
- ウ 体育に関する施設の充実、改善
- エ その他協会の目的達成に必要な事業

なお、当協会は市内の体育諸団体及び協会の目的に賛同する者をもって組織され、平成 24 年 4 月末現在の正会員数は、23 団体、389 チーム、7,004 名となっている。また、協会の事務を処理するため、アイプラザ半田内に事務室を設置し、会長を始め、副会長 2 名、理事長 1 名、副理事長 1 名、常任理事 20 名、理事 28 名（事務局長 1 名含む）、書記 1 名、会計 1 名、監事 2 名が置かれている。そのうち、副会長に半田市教育長が就任し、スポーツ課職員が事務局長、書記及び会計を務めている。

協会の収入は、主に会費、委託料、交付金、助成金であり、主な事業として、市体育大会・市民大会の開催、成績優秀者への表彰、中国徐州市とのスポーツ交流、体協ニュース・体協だより等の作成・配布による P R 活動、加盟団体の活動補助などを実施している。



<半田市体育協会表彰式>

また、第2次半田市スポーツ振興計画（平成23年3月策定）においては、協会は各種のスポーツ事業に取り組み、今後も市民の競技力向上及びスポーツ振興に寄与するスポーツ団体の中心的な役割を担っていくこととしている。

(2) 交付の目的及び対象経費

半田市体育協会スポーツ振興事業交付金交付要綱では、「市内のスポーツ諸団体を総括する半田市体育協会が行うスポーツ振興事業に対し、交付金を交付し、もって市民一人ひとりがスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現を図る。」ことを目的としており、協会が主催する半田市民体育大会開催費、事務費等を交付している。

科 目	交 付 金 額
市交付金	2,250,000 円

(3) 交付対象事業の経理状況

ア 収入の部

平成23年度スポーツ振興事業（半田市民体育大会）に係る収入は、次表のとおりであり、市交付金及び大会参加費に対して不足した226,160円は各加盟団体及び協会が負担している。

科 目	金 額
市交付金	2,250,000 円
大会参加費	1,643,400 円
各団体拠出金	226,038 円
体育協会負担金	122 円
合 計	4,119,560 円

イ 支出の部

平成23年度スポーツ振興事業（半田市民体育大会）に係る支出は、次表のとおりである。市交付金2,250,000円のうち各加盟団体へ大会開催費として2,035,500円が、報償・表彰費及び大会需要費に214,500円が充当されている。

科 目	金 額	備 考
報償・表彰費	100,800 円	賞状用紙等
大会総事業費	3,904,938 円	役員手当 審判手当等 賞品代 事務・消耗品代等
大会需用費	113,822 円	体協ニュース印刷費 事務用消耗品等 振込手数料
合 計	4,119,560 円	

## 第5 監査の結果

監査の対象とした半田市体育協会交付金について、交付目的に沿った事業の執行及び交付対象事業における出納その他の事務については、おおむね適正に執行されていることが認められた。

当協会の目標は「競技人口の拡大」や「競技力の向上」と位置付けられており、市が求めるスポーツ実施率の向上へと繋げるために加盟団体を通じて初心者向けのスポーツ教室や講習会などを開催し、競技人口の拡大に努めていた。

そこで、当協会の活動状況を見てみると協会会員数の状況（図1）では、チーム数・個人数ともに減少傾向にあるものの、大会参加者数（図2）はほぼ横ばいとなっていた。これは、各競技によって大会の開催方法が異なり、協会に加盟せず大会のみ参加するチーム等が増えているためと考えられる。

また、図2における市民体育大会及び市体育大会の参加者数は、ほぼ横ばい状態であるが、助成事業（協会が助成する競技大会等）については23年度のみ増加している。これは、大規模な大会（半田市近郊中学女子ソフトボール大会等）の開催による一時的なものであるが、協会として推奨している競技大会の参加者数は維持できていた。

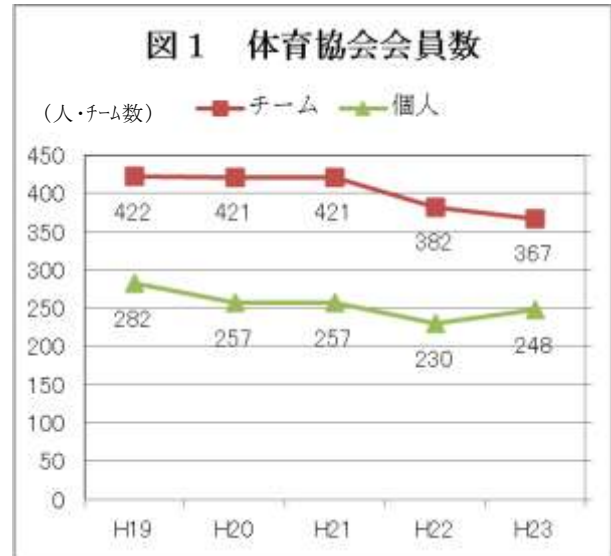
こうした状況を踏まえ、競技人口の現状及び推移の把握に努めるとともに各加盟団体の要望を協会が市と協議し、可能な部分は改善する仕組み作りをすることで協会の更なる発展を期待する。

なお、次のとおり検討・改善を要する事項について所見を付すので、今後の事務の執行に留意されたい。

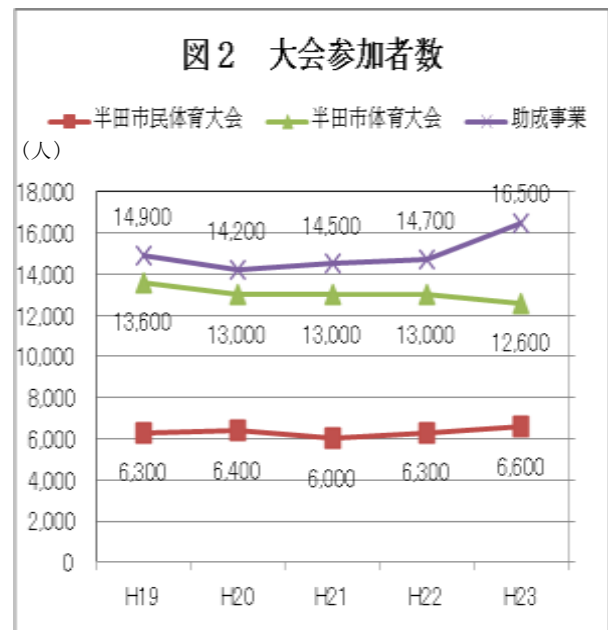
## ○ 所見

### (1) 協会の在り方について

当協会は、各加盟団体の中心的な役割を担っており、目標を「競技人口の拡大」や「競技力の向上」とし、競技大会などの様々な事業を実施している。しかし、各加盟団体の競技人口の増減の把握がされていない状況が見受けられた。よって、この交付金制度が実効性のあるものとなるよう各加盟団体の交付金の使途を十分に精査し現状を把握したうえで、協会としての方針を定め市民のスポーツ振興が図られることを期待する。



注) 各加盟団体に登録されているチーム数・個人数に分けられている。



(2) 賠償責任保険の加入について

競技者にはスポーツ安全保険への加入を呼びかけているが、競技大会の主催者側関係者に対し損害賠償を請求された場合の賠償責任保険に加入していないことが懸念される。市主催のマラソン大会や半田市体育大会等においては市加入の保険が利用できるが、協会主催の市民体育大会等においては適用されない。昨今の社会情勢の影響から競技者の考え方も変化しており、様々なケースに備えて競技者及び競技大会関係者の安全を確保するために賠償責任保険の加入を早急に検討されたい。



<半田市民体育大会（剣道競技）>